

(様式3)

外国人児童生徒等教育アドバイザー派遣結果報告書

都道府県名	三重県	市町村名	四日市市		教育委員会指導課
派遣日	令和5年7月6日(木曜日) 13:00~16:00 〈日程〉 13:00~14:00 初期適応指導教室「いずみ」参観 14:15~16:00 四日市市役所内指導課にて市の施策・取組に対する指導助言				
実施方法	※いずれかに○をつけてください。 <u>派遣</u> / 遠隔				
派遣場所	四日市市立中部中学校内初期適応指導教室「いずみ」 四日市市役所				
アドバイザー氏名	横浜市教育委員会事務局学校教育企画部小中学校企画課指導主事 横溝 亮				
相談者	四日市市教育委員会指導課第1係				
相談内容	(1) 四日市市の外国人児童生徒等教育施策について ①初期適応指導教室「いずみ」の指導体制について ②「特別の教育課程」としての日本語指導のありかた ③JSLカリキュラムに基づいた授業づくりの推進方法 ④DLA 四日市版について (2) 外国人児童生徒等が在籍する学校の指導体制について ①母語で支援を行う適応指導員の支援体制について ②拠点校及び一般校における「特別の教育課程」と個別の指導計画について				
派遣者からの指導助言内容	横溝アドバイザーからは、横浜市の施策や取組内容を紹介いただきながら四日市市の取組について様々なアドバイスをいただいた。 (1) について、初期適応指導教室「いずみ」における日本語指導の様子及びオンラインでの通訳翻訳支援について参観していただいた。その中で、四日市市がきめ細かく通訳翻訳支援をしていることや、日本語指導が必要な児童生徒に初期適応指導教室で3か月間しっかりと日本語指導をしていることを褒めていただいた。一方で、通級を終了した外国人児童生徒の日本語学習支援については、受入校の体制及び継続的な研修の体制に課題があることを教えていただいた。横溝アドバイザーからは、外国人児童生徒を受け入れる学校の教職員に向けた、受け入れ及び具体的な支援方法を伝える校内研修会や外国人児童生徒教育担当者に対する日本語指導及び支援方法についての継続的な研修会の開催を行うことについてご助言いただいた。また、学校への支援のために、日本語支援アドバイザーのような人材を教育委員会に置くことで、学校が相談できる体制作りを進める大切さも教えていただいた。DLA 四日市版については、児童生徒の日本語測定を行っていく中で、現行のものを改良し、より良い測定につなげていくことをアドバイスいただいた。現在四日市市では、JSLカリキュラムに基づいた授業づくりについて、担当者研修会で周知を図っているが、担当者研修会の				

(様式3)

	<p>みならず学校の授業研修会等で実際に授業する先生方と一緒に授業づくりについて考えることが JSL カリキュラムに基づいた授業づくりを広めていくことにつながるとご助言いただいた。</p> <p>(2) について、四日市市では母語で支援を行う外国人児童生徒適応指導員を40名程度各校へ派遣している。母語支援を充実させる一方で、日本語指導に関しては母語を話す適応指導員では十分に教えることができない場合があり、課題と捉えている。横溝アドバイザーからは、日本語指導を行う際は、日本語指導に必要な資格をもった指導員がいたほうが効果的であることを教えていただき、現在の支援体制を見直すきっかけとなった。また各校が作成する個別の指導計画について、横浜市で活用しているものを基に説明いただき、学校に負担がかからないようなものにするるとともに、必要な情報がわかり、活用しやすいものを市全体で共有することの大切さを助言いただいた。</p>
相談後の方針の変化、今後の取組方針等	<p>横溝アドバイザーにご助言いただき、これまでの取組の見直しを行ったり取組を進めたりする。</p> <ul style="list-style-type: none">・外国人児童生徒の編入、転入があった際は、必要な情報を聞き取り、学校内で共有できるようなシートを作成し、個別の指導計画に活かせるようにする。・担当者研修の内容及び回数を見直すとともに、研修会の効果的な実施方法を考える。・現在の市内各小中学校に派遣されている外国人児童生徒適応指導員のより効果的な活用方法について見直すとともに、今後日本語指導を行う指導員についてどのような指導員を派遣していくか検討する。

1枚にまとめる必要はありませんので詳細に記載願います。

なお、本報告書の内容は、文部科学省ホームページで公開いたします。